

# りょうかわ



学校だより 令和2年5月8日発行 第3号 新潟市立両川小学校

## Hole in the Wall どんな環境下でも子どもは主体的に学び続ける

校長 中村 雅芳

別紙お便りでも詳しくお知らせした通り、5月11日（月）から29日（金）までの15日間（うち11日～13日の3日間は準備、オリエンテーション期間）は、臨時休校期間中の分散登校期間となります。この期間、通常の授業は行いませんが、子どもたちには予習的な課題を課し、学習動画を補助として用いて、主体的に学びを深めていくように促します。具体的には週に2時間程度、PC室を利用して学習動画視聴を促します。

子どもたちの学習を促進するような動画は何がよいのか、これまで私たち教職員でリサーチしてきて、次のようにリストアップしました。

- おうちで学ぼう！NHK for school <https://www.nhk.or.jp/school/ouchi/index.html>  
内容：全学年 国語・算数・生活・理科・社会・英語・道徳・特活
- 光村図書学習支援応援サイト [https://www.mitsumura-tosho.co.jp/oshirase/shien\\_index.html](https://www.mitsumura-tosho.co.jp/oshirase/shien_index.html)  
内容：全学年 国語・道徳
- 学校図書学習支援コンテンツ <https://gakuto.co.jp/contents-worksheet/>  
内容：小4～小6 算数・理科
- 教育芸術社自宅学習支援コンテンツ <https://textbook.kyogei.co.jp/library/>  
内容：全学年 音楽
- 日本文教出版児童生徒用コンテンツ [https://www.nichibun-g.co.jp/learning\\_support/](https://www.nichibun-g.co.jp/learning_support/)  
内容：全学年 図画工作
- いばらきオンラインスタディ（小学校） <https://sites.google.com/view/ibastudye/>  
内容：全学年 国語・社会・算数・理科・英語・音楽・図画工作
- 福井県教育庁チャンネル [https://www.youtube.com/channel/UC\\_ZMXFvuu-YWEbk0wK79jhw/videos](https://www.youtube.com/channel/UC_ZMXFvuu-YWEbk0wK79jhw/videos)  
内容：全学年 国語・算数・外国語
- とある男が授業をしてみた <https://www.youtube.com/user/toaruotokohaichi>  
内容：小3～小6 算数
- eboard channel（イーボードチャンネル） <https://www.youtube.com/channel/UCdC0IKlgImChng1c9d2otlA>  
内容：全学年 算数
- よしみん先生 [https://www.youtube.com/channel/UC3tGcgCHSHCi1adeWDD-V\\_g](https://www.youtube.com/channel/UC3tGcgCHSHCi1adeWDD-V_g)  
内容：小3・小5 算数 国語（百人一首や漢字の部首等）

繰り返しになりますが、臨時休校期間中の分散登校は授業日ではないので、通常の授業は行いません。教職員は、自学自習をする子どもたちを傍らで支援していきます。その支援の具体が、予習的な課題を課すことと、学習動画の利用です。

子どもたち自身が主体的に学びを深めていけるように、これらの学習動画を各ご家庭でもご活用願います。「家庭にはネット環境がないのだが、子どもが動画で学ぶことを望んでいる」という場合は、学校までご相談下さい。ご協力をお願いいたします。

なお、以上の取組はあくまでも学校が正常に戻るまでの臨時的措置です。集団で、主体的・対話的に深く学んでいく授業が基本であることは変わりません。しかし一方で「インターネットでの学びが、従来の学びの姿を終わらせる」と、今から10年前に主張した人がいました。認知科学やA. I. の研究者であり、「Hole in the Wall」というプロジェクトの開発者でもあるスガタ・ミトラ氏（1952年生まれ・英国ニューキャッスル大学教授）です。



以下、『WIRED（ワイアード）VOL.5』（教育特集「未来の学校」2012.10 コンデナスト・ジャパン）からの抜粋です。

私が今から13年前にインドで手がけた実験「Hole in the Wall」は、インドのスラムの街角にコンピューターを置いて、子どもたちに自由に使わせるというものでした。そこで私は、「子どもは人に教わることなく学ぶことができるか？」という問いを検証しようとしたのです。結果はこうです。「何人かのグループになればそれができる」次に出てきた問いは、コンピューターの使い方を学んだ子どもたちは何をするか、ということです。大方の予想は「ゲームなどで遊ぶだろう」というものでした。しかし、しばらくすると子どもたちはゲームに飽きて違ったことを始めます。そしてGoogleに行き当たるのです。そこで彼らは宿題の答えをGoogleで探し始めます。そこで次の問いが出てきます。「子どもたちは果たしてGoogleを通して何かを学んでいるのか？」研究の結果わかったのは、彼らは確かに学んでいるということなのです。

会計士ではないのに、あなたが会計士のフリをしていたとします。私がそれを信じてあなたに仕事を頼んだとします。あなたはインターネットを駆使して私のバランスシートの問題を解決し、私は報酬を支払います。次のお客さんが来ます。同じ手順であなたは仕事を遂行します。2度目は最初るときよりも仕事は簡単になっているでしょう。それを2～3年続けたらどうなりますか？あなたは立派に会計士ではないですか？それが私の問いでした。人は何かのフリをしているうちに、それになってしまいます。子どもたちも、実際そんなふう学ぶのです。インターネットを前提としたこうした学び方は、これまでの教育のあり方を消滅させてしまうことになるでしょう。（中略）

これからの時代、資格試験や卒業証書などは無意味になっていくでしょう。それよりも何ができるのかが問われます。私の会計の問題を解決してくれるなら、あなたは会計士です。免状などいりません。その社会では、人々は一切の画一化から自由になっています。同時にみんなが共有する知識というものもなくなります。そのとき物事の価値判断は一体どうなるのでしょうか。私の現在の興味はそこにあります。子どもの価値判断のメカニズムがどうやって形成されるかということです。それがわかれば、未来の子どもに教えるべきことは3つだけになります。読み書きする能力。必要な情報を得る能力。そして、その情報の価値を判断する能力。つまりあらゆる教理から自由になるための能力です。

従来の学校教育の検証や、教育環境整備がなければ、一足飛びにスガタ・ミトラ氏が主張する様相にはならないでしょう。しかしながら、今回の新型コロナウイルス禍で、学校という学ぶ場所が奪われても、インターネットを利用して学び続けられることを私たちは実感しました。うまく利用し、バランスを大事にしながらか進めていきたいと思っています。